



謹賀新年

年頭の挨拶 大杉中央執行委員長



新年明けましておめでとうございます。昨年中は格別のご愛顧、クラウンメロン販売ご支援等を賜わり心より厚く御礼申し上げます。また、昨年は大規模災害に多々見舞われ、被害にあわれた方々には心よりお見舞い申し上げます。

さて、今年の干支は亥であります。猪肉は万病を予防するなどと言われている、無病息災の象徴とされ「勇気と無病息災」の意味があるそうです。機会がありましたら、猪肉をご賞味いただき、健康な体づくりをして頂きたいと思っております。

私から新年の抱負といたしまして「安全」、「組織」、「新人事賃金制度」について述べてさせていただきます。まず「安全」についてですが、JRグループ・協力会社内において重大労災事故が昨年も発生し、JR連合が掲げる重大労災事故撲滅には至っておりません。JRグループ内には多岐にわたる職種が存在し対策は容易ではありませんが、労働組合として組合員の命を守る「一丁目一番地」の社会的責務があります。危険の芽を組み取ることは命を守ることに繋がります。その芽を摘み取る行動としてヒヤリ・ハットがあります。各現場においては、報告が上がれば直ぐに聞き取り調査を行い、報告内容の周知を図っていると思っておりますが、安全への近道は、小さな芽のうちに摘み取ることが重要であり、積極的にヒヤリ・ハットを取り組んで頂き、安心して仕事ができる職場づくりを進めてもらいたいと思っております。万が一、このような体制が取れていない現場があれば、早急に対応するよう要望して下さい。

次に「組織」についてです。昨年、JR東日本において大きな動きがあり、現在、JR連合約83000名、JR総連約29000名という図式となっております。原因は言うまでもなくJR東労組の大量脱退であります。民主化闘争完遂に向けて、JR北海道・JR貨物で変動を起す絶好のチャンスであります。JR北海道、JR貨物で働く殆どの社員の皆さんは良識ある方々です。昨年、線路内等で多発しました不審事象などは、普通に働いている社員の方々にとって大変危険なものであり、政府や警察などは、今なおJRに浸透した革マル派の実態を注視しています。貨物鉄産労として、「政府や警察が注視している組織が、JR内に存在するのは如何なものか」と内外に発信し、社員が安心して働ける職場 国民から信頼され安心して利用できるJR貨物にする責務があります。JR貨物に就職した社員は組合活動をするために就職したではありません。JRグループの持続的な発展に向け、組織課題を共有し今後も取り組んでいきます。

最後に、「新人事賃金制度」についてです。現在、鋭意交渉中ですが、本部として組合員の何人かをピックアップし普通評価で生涯賃金を試算しました。会社は、「現行制度より下がる人はいない」と言いますが、評価制度、昇職、職群転換、各種手当等、多岐にわたり影響

を大きく受けることも考えられ不安は解消されません。会社が人事制度改正により実現したいことは、「社員が安心して生き生き伸び伸びと力いっぱい働けることができ、仕事のやりがいと自分の成長を感じられる会社としたい」、「公正な評価により、きちんと真面目に働く社員が報われる会社としたい」等としていますが、「誰もがやりがいを感ずる制度内容」「公正な評価が必ず出るといいう体制」をしっかりと示して頂き、4月から全社員が新制服に気持ち良く袖を通せる事を望みます。

結びといたしまして、JR連合では、自然災害に備えて鉄道強靱化、鉄道軌道整備法改正を政府に要請いたしました。皆様のご自宅につきましては、安い掛け金で安心できる、総合共済・火災共済・地震風水害等の加入、増口をご検討下さい。新しい年が更に良い年となるよう祈念いたしました。私から新年の挨拶とさせていただきます。共に頑張りましょう。

新年のあいさつ JR連合・松岡会長



新年明けましておめでとうございます。2019年の新春を組合員・ご家族とともに健やかに迎えたいとお喜び申し上げます。また、JR連合運動へのご理解・ご協力に感謝申し上げます。まず、JR発足からすでに32年を経過しようとしています。この間のJR労働運動の築き上げてきた軌跡を振り返れば、自由にして民主的な

労働運動を基調とした諸活動の展開によって、今日のJR産業の発展に働く者の立場から寄与してきたところと、そして、本年のさらなるJR労働運動の躍進にむけて、4点にわたり、所感の一端を述べ、決意とさせていただきます。

一点目は、安全の取り組みです。JR連合は今日まで安全確立を最重要課題に位置づけて運動を展開してきました。特に「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を目指し、加盟単組とともに、不断に、かつ愚直に取り組みを展開してきました。しかしながら、昨年の大会以降も3件の労災死亡事故が発生しているなど、JR関係労働者の労災は依然として減少傾向に至っていません。JR連合は「安全指針」「重大労災防止の行動指針」を活用し、エリア連合主催の安全デイスカッションをはじめとする組織間コミュニケーションを展開しながら、JR各社・グループ会社・協力会社、それぞれの職場からの安全確立にむけて取り組みます。

二点目は、民主化闘争と組織強化・拡大の取り組みです。JR東労組では、昨年2月以降、3万人を優に超える組合員の大量脱退が発生しました。今こそ、JR連合が1999年以降粘り強く取り組んできた民主化闘争を完遂する最大のチャンスです。昨年の定期大会以降、民主化当該単組において9名の拡大を果たしましたが、この好機を見逃すことなく、JR東日本はもとより、JR北海道、JR貨物にも着

実に勢力を拡大していかなければなりません。JR産業の持続的な発展のためには、自由で民主的な労働組合と健全で建設的な労使関係が不可欠であり、JR連合加盟組織一丸となって取り組みを進めていきます。また、JRグループには多くの労働組合未結成のグループ会社があり、当面の目標である「10万人組織」の実現のため、そして、雇用の維持・確保、賃金をはじめとした諸労働条件改善のためにも、組織化、さらには組織強化・拡大をますます進めていかなければなりません。

三点目は、政策課題の取り組みです。昨年は大規模自然災害が連続しました。復旧にむけては、JR各社の連携・協働、自治体と道路管理者や河川管理者などとの一体的な取り組みによって、復旧時期を前倒しできたことが大きな成果である一方、従来の課題を残している上、顕在化した新たな課題もありました。昨年11月には国土交通大臣要請行動も実施しましたが、今後も引き続き取り組みなければなりません。なお、政策課題の解決においては、政治との関わりが必要不可欠です。「JR連合国会議員懇談会」、「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」及び「地方議員団連絡会」の体制を強化していくためにも、本年4月の統一地方選挙、7月の参議院議員選挙では推薦候補者の全員当選を目指していきます。

四点目は、「中期労働政策ビジョン」に基づく、2019春季生活闘争の取り組みです。2018春季生活闘争では、JRでは5単組、グループ労組では前年を上回る51単組がベアを獲得するなど、JR連合総がかりの取り組みを展開できました。2019春季生活闘争においても、引き続きグループ労組への波及効果を生み出すべく、積極的に支援体制を構築していきます。さらに、新中期労働政策ビジョンについては、同ビジョン策定PTを中心に取り組みを進めています。JR産業の発展に資する、より現実的な提言として、新ビジョンを策定していきます。最後に、JR連合8万3千名が一致団結し、諸課題の解決に取り組み、その先頭に立って奮闘することをお誓い申しあげ、新年のメッセージといたします。

吉永中央執行委員



新年あけましておめでとうございませう。旧年中はたいへんお世話になりました。新しい年を新たな想いと決意でお迎えしたいと思います。

昨年は、大規模災害に奮起した一年でした。6月には最大震度6弱の大阪府北部地震、7月には、西日本を襲った豪雨で山陽線が長期間不通となり、9月には台風21号が上陸し、同月には北海道を襲った平成30年北海道胆振東部地震」が起き多くの人が被害に遭いました。JR貨物も大きな影響を受けましたのが、現実を受け止め、目を背けず全員の力で乗り切ったことは次のステップに繋がることと思います。会社として、このような大規模な災害が、今後頻繁に起きることを予想し、危機管理対策をしっかり取り組んでいきたいと思います。災害といえば、私が住む北海道では、毎年雪による災害が起きます。雪に慣れているとは言え、災害が「0」になることはありません。4月上旬まで雪と向かい合っただけの作業となりますが、大きな事象・重大労働災害を起さないよう、日々安全最優先を心がけ取り組んでいきたいと思います。予定では4月から新人事賃金制が始まります。新しい中身として評価制度が入りますが、私達がまず考えなければならぬのは、過去に経験した2パーセント問題です。会社は「公正な評価をする」と言っていますが、やってみれば分かりません。また、評価者について非組合員にするように求めています。明確な回答はまだもらっていません。あの苦い経験を2度と繰り返すことのないよう、組織内で取り組んでいくことが必要です。組織について、北海道地区本部内では、しばらく拡大がありません。JR東日本では、あのような大きな動きがありました。JR北海道でもあのような大きな動きがあるかもしれません。いつあっても行動できるようJR連合とともに取り組んでいきたいと思います。最後に、組合員、御家族の皆様が、

幸せな年になることをご祈念いたしまして、新年の挨拶と致します。今後も一致団結して頑張っていきたいと思います。

東海地区本部奥田執行副委員長



新年明けましておめでとうございませう。本年も宜しくお願い致します。東海地区本部を代表してご挨拶を申し上げます。

まず、安全についてですが、東海地区本部は昨年の第33回地区本部大会以降、安全の確立を運動の最重要課題と位置付けて運動を進めてきました。しかしながら、走行中に貨車の緊縮装置脱落や入換不良・無保安での本線走行・車両転落等、一歩間違えば人命を脅かす事象が度々発生し、今一度「安全最優先」について考えなければなりません。事象の絶滅を目標とし、「何の為に守るのか」「何の為に決められたのか」を全組合員で再認識していく必要があります。過去に発生した重大事故の責任と教訓を踏まえ、事故を風化させる事なく、悲劇を二度と繰り返さないという決意で取り組んでいきます。次に、組織についてですが昨年は東海地区本部で2名の組織拡大を果たし、分会役員の世話役行動の結果の表れだと思っております。しかし、このままで終わってはいけません。残念ながら組織は減少の一途を辿っています。東海地区本部においても長年組合役員に携わってきた方々が定年を迎え、世代交代が大きな課題となっています。九州地区本部においても拡大があり、この流れを他の地区にも波及させ成果を出していかなければなりません。簡単なことではありませんが、継続することが組合員への勇氣にもなります。私達が取り組んでいる運動を、ニュース等で内外に情報発信し、地道な運動が更なる拡大に繋がると信じ今後も取り組んでいきます。東海地区本部は安全最優先をはじめ、更なる組織拡大を目標に全力で取り組んでいく事をお約束し、新年のご挨拶とさせていただきます。共に頑張りましょう。



「支え合い」は「ささえ愛」。仲間みんなで守り合いたい。

交運共済は、JRやJR関連企業で働く仲間を守る相互扶助の共済です。厚生労働省の認可を得て事業を行い、組合員とそこそご家族の安心と生活をサポート。慶弔見舞金制度の総合共済から、火災、地震風水害、交通災害、生命、入院、マイカー、自賠責、総合医療と共済事業を展開し、幅広い保障体制を整えています。



みんなで暮らしをガード
交運共済
全国交通運輸業労働者共済生活協同組合

佐々木中央執行委員



皆さま明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。職場は門司機関区の検修であります。日頃より

大変お世話になっております。

昨年、九州地区本部では保全職場の頑張りによって組織拡大をすることができました。改めて、加入していただいた方々の勇気と決断に敬意を表します。JR連合とともに、今後もこの流れを継続し、更なる拡大が出来るよう、九州地区本部運動を先頭になって盛り上げていきたいと思っております。九州地区では、周知の通り、一昨年12月、痛ましい触車死亡労災を発生させてしまいました。二度と起こさないように安全最優先で業務しています。が、全国において、事象や労災は日々起きています。3月までは災害が起こりやすい冬期となり、列車の遅延が多く発生し作業変更等が多く発生します。事象や労災はこうした時に起こりやすく、いつも以上に注意が必要であり、安全最優先の作業をお願いしたいと思います。個人の目標としては、ヒューマンエラーによる車両故障を発生させないことを念頭にしております。最後に、今年は亥年で、連日のようにイノシシと列車の衝突が発生して遅れが生じています。イノシシの方々には亥年だからとあまり張り切らないようにと忠告し、新年の挨拶とさせていただきます。今後も皆様からのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



九州地区本部田代委員長



新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

昨年は、自然の猛威を改めて感じる一年となりました。被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。今なお避難生活を強いられる方々には一日も早く元の生活に戻ることを切に願っております。

新年にあたり、安全・組織の2点について述べさせていただきます。

まず、安全の取り組みについてですが、福岡ターミナル駅構内・千早操車場構内において、重大労災が発生しました。JR連合とともに再発防止に向け取り組んでいます。各旅客会社において重大労災が起きており、ちょっとした油断や気の緩みが重大な事故や労災に繋がります。かけがえのない命を一瞬で無くしてしまう悲惨な事故や労災を二度と起こさないため、事故が発生してから対策するのではなく、事故が起こる前に対策することが重要で、そのためには作業内容・作業順序・作業ダイヤの再検証を行うことが必要であると考えます。鉄道業は一人作業も多く、自分自身は自分自身で守らなければなりません。今一度、安全に対する考えを見つめ直してみたいかがでしょうか。次に組織についてですが、昨年、保全職場において組織拡大が来ました。改めて、勇気ある決断に感謝致します。大事なことは、この流れを一時的なものにする事なく続けることが重要であり、さらには全国へ波及していくことが重要です。今年においても、取り組みをさらに強めていき、良い報告が出来るよう頑張っていきます。

最後に、九州地区本部として、諸課題解決に向け奮闘し、全国の仲間と共に頑張っていくことをお誓い申し上げます。新年の挨拶と致します。共に頑張りましょう。

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

中央執行委員長

大杉正美

中央執行副委員長

小笠原浩文

書記長

辻村和裕

中央執行委員

植岡大介

吉永和史

佐々木恭兵

新井亮太

特別中央執行委員

山崎俊実

内山進

小山達礼

会計監査員

鈴木俊巳

加藤典久

職員

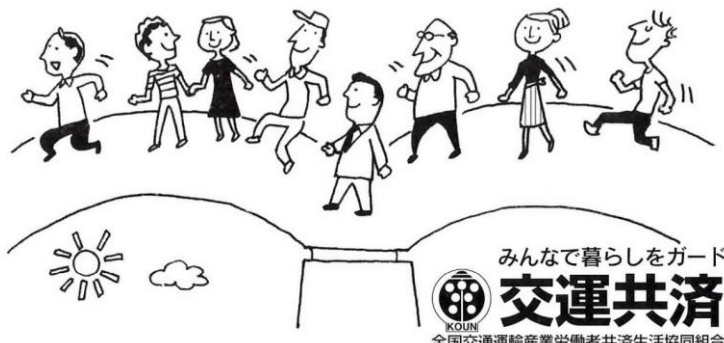
田中千絵

平成三十一年 元旦



人生を渡っていくには、しっかりした橋が必要です。

長い人生には、病気、交通事故、火災、地震…など、何が待っているかわかりません。安心できる暮らしの「架け橋」として交運共済が頼りになります。営利を追求しないぶん、少ない掛金で大きな保障が得られるのが大きな特徴。しっかりワイドにガードする、交運共済をお役立てください。



みんなで暮らしをガード
交運共済
KOUJIN
全国交通運輸産業労働者共済生活協同組合